

平成27年秋にデビューした世界に一つだけの鉢植リンドウ 花巻銀河ブルー[®]

昨年、デビューから2年目にして、異例ともいえる数々の賞を受賞した「花巻銀河ブルー」。生産者たちが手塩にかけて育てた花巻銀河ブルーは大きな期待を背負いながら、これまでに増して輝きを放ち、3年目のシーズンに臨む。



魅力

光沢のある濃い青色や、室内観賞で1カ月以上楽しめる期間の長さ、一輪の大きさや一鉢に咲く花数の多さ、優れた耐暑性。鉢花生産部会だけで生産するオリジナル品種。

出荷時期

鉢花リンドウの需要期は9月の敬老の日だが、花巻銀河ブルーは「最も美しい状態でお客様に届けたい」という生産者の思いから、産地・消費地ともに気温が低下し品種の魅力を最大限に引き出せる10月にこだわって出荷。

名前の由来

開花した花弁の深い青色と、雄しべ、雌しべの乳白色の群生が星空のように見え、花巻の偉人・宮沢賢治が描いた童話「銀河鉄道の夜」の世界観をイメージできることから名付けた。

受賞歴

平成28年10月 第13回国際フラワー EXPO (通称IFEX) IFEXフラワー大賞・鉢物部門 優秀賞
平成28年10月 (株)フラワーオークションジャパンJFIトレードフェア2016秋 in FAJ ベストプランツ賞
平成28年10月 鴻巣花き株式会社 秋季品評会ポットプランツコンテスト金賞

各種登録

品種登録 農林水産省に品種の登録をしています。登録番号第25612号
商標登録 「花巻銀河ブルー」は花巻農業協同組合の商標登録です。登録番号第5858719号

産地PRの起爆剤として～未来を照らす青き希望の光～

「鉢植リンドウは10月の出荷では売れない」と言われていたが、「この時期にしか表現できない美しさ」で勝負したいとこだわりをもって生産し、2シーズンの販売をしてきました。

良い物を作れば需要期といわれている時期以外でも十分勝負できる事が明確に見えました。名誉ある賞を頂いたり、カタログギフトの表紙を飾らせてもらうなど、広くアピールもでき、現在10月出荷に向けた契約や注文など、需要が高まっています。だからこそ失敗は許されず、頂いた高い評価に見合う、それ以上の期待に応える品質で出荷し、産地としての責任を果たします。

デビューを盛り上げてくれたのが、ブルーシリーズとしてのPR

活動や販促資材の制作、我々の試験栽培活動のインターネットでの情報発信など、PRの土台を構築してくれていた事でした。ブルーシリーズや花巻銀河ブルーの存在は多くの可能性を秘めています。産地の素晴らしさの再評価に必ず繋がると信じています。地域住民や若い方々が花に興味を持つきっかけ、地元の方々が「我が地域の花」として誇れる存在を目指したい。JAや行政と共に発信力を強め、今後も栽培に情熱を注ぎ、部会が丸となって頑張ります。

鉢花生産部会 佐藤 巧 部会長



SL 銀河とのタイアップ ～全国から訪れた観光客へ～

SL 銀河の運行期間中、毎月JA職員が乗車し、生産現場の思いやブルーシリーズを紹介しながら、オリジナルリーフレットなどを配布している。車内で抽選会を行い、当選者に最盛期を迎えたブルーシリーズを



プレゼント。この企画を皮切りに通年花き生産のアピールが始まった。市場関係者やバイヤーなどが話題をキャッチし販路が広がったほか、乗客がSNSなどに投稿し、ネット上での広がりも見られた。



観光名品としてプレゼント ～たくさんの人に知ってもらいたい～

花巻温泉郷観光推進協議会が企画した宮城県のJR仙台駅で行った観光キャンペーンに参加。通行人に季節のブルーシリーズをプレゼントしPRした。



オリジナルリーフレット ～大切にしたい一品に～

「家を持って帰ってもらいたい」。その思いから、ブルーシリーズの紹介パンフレットのほか、ブルーシリーズをあしらった絵葉書やコースターをセットにしたリーフレットを制作。



地域が誇れる花に ～行政と共にPR～

行政やJAなどの関係機関に贈呈し、市民が訪れる場所への設置はもちろん、トップセールスや広報誌への掲載、名刺への印字などで広く周知活動を要望するとともに、共にPR活動を展開している。



ブルーシリーズが繋ぐ人の流れ ～地域住民や観光客に～

JAの産直母ちゃんハウスだあすこに特設コーナーを設置し販売。花巻市内の温泉施設には観賞用の花やポスターなどを飾り、観光客や地元住民へのアピール活動を行った。花を見た宿泊客が産直店へ足を運び購入するという流れの構築を目指した。



前に進む原動力

早速、企画書を作りSL 銀河を運行する鉄道会社に提案した。しかし、そう簡単には掛け合ってもらえない。何度断られても、企画書の提出や行政に取り次いでもらいながらの会議への参加など、とにかく出向き、思いを伝えた。どんな時も前に進み続ける、その原動力がどこから来るのか問うてみた。「魅せられた。美しい花と、それを作る生産者たちに。」返事は即答だった。国内でもトップレベルの品質で生産する現場を日々見ているからこそ、そして切花や鉢植などの部会の枠を越えてブルーシリーズの企画に賛同し、共に産地を盛り上げようとする生産者たちの顔を思い浮かべると、妥協や諦めという思考は生まれなかった。

感動を与える花

「わぁー綺麗」。SL 銀河から降車してくる観光客が青色に輝く花に微笑む。ブルーシリーズの誕生から2年、SL 銀河の運行に合わせて毎月

行っている観光客への月ごとのブルーシリーズプレゼント企画は好評だ。もちろん今年も実施する。(P6左上参考) SL 銀河の運行会社とも、今では固く手を結び、相乗効果を生み出す良きビジネスパートナーとなった。美しい花々と、その素晴らしさを伝えたいという強い思いが、人に感動を与え、思考と行動を変えたのだ。地域住民がJA産の花を持って町を歩く姿が「当たり前」になる日も来るかもしれない。

布石

3シーズン目を迎えたブルーシリーズ。企画当初に思っていた姿に少しずつ近づいてきている。生産者の努力と直向きな生産活動、地道なPR活動は、着実に実を結び、新たな市場を開拓した。JAいわて花巻の花への評価が高まり、その美しき花にファンがつき、さまざまな広がりを見せ始めている。この一歩一歩が、管内で生産する花きを全国に発信する大きな布石となるだろう。